

## 第6学年 家庭科学習指導案

い組 男子18名 女子20名 計38名

指導者 福丸 奈津子

### 1 題材 生活に役立つ物を作ろうⅡ～家族へのおくり物～

#### 2 題材について

##### (1) 題材の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに、目的に応じた縫い方で手縫いをする学習や、手縫いとミシン縫いのよさを生かして既製品を加工する学習をしてきた。その中で、もっといろいろな物を作りたいとか、家族のために役立つ物を作ってあげたいといった願いをもってきている。また、できるようになったことを振り返り、家庭生活においてどのような役割を果たしているか見つめ直す学習を通して、自分が家族を構成する一員であることを実感し、家族の願いを実現するためには家庭生活における役割を果たす必要性に気付き、「家族の役に立ちたい」という願いをもってきている。

そこで、本題材では、作品の大きさや形を考えて布を裁ったり布を縫い合わせたりする活動を通して、一枚の布から作品を製作する手順や方法が分かり、友達と教え合ったり話し合ったりしながら協力して目的に応じた工夫をして、生活に役立つ布製品を作り上げることができることをねらっている。さらに、布を加工することで作品の使い道が無限に広がることから、目的に応じて工夫しながら製作する楽しみを味わうとともに、贈る相手や用途によって見た目のよさや使いやすさなどを考えて、家族の生活をよりよくしていこうとする実践的な態度を高めることをねらっている。

これらの学習は、衣服の役割に関心を持ち、衣服を計画的に活用・選択することができ、布を用いて生活を豊かにするために工夫しながら製作することができる中学校の学習へと発展していく。

##### (2) 指導の基本的な立場

布で作られた物は、可塑性に富み丈夫で肌触りがよく、用途に応じて加工しやすいというよさがあり、我々の日常生活において必要不可欠な物となっている。また、手縫いやミシン縫いのよさを生かして立体的な布製品を作れるようになることは、厚みやゆとりを考えて目的に応じた採寸の仕方や縫い方の選択などができるという力を高めることができる。さらに、自分の家庭生活や家族に応じて作品を製作することは、自らよりよく工夫できるを見つけ加工したり、自分で作り上げた楽しさを味わったりするとともに、作った物が自分の家族の役に立ち家庭生活中で活用することができるなどのよさがある。

これらのことより、自分の家庭生活に応じて家族のために生活に役立つ布製品を作ることは、製作する意欲を高め、これまでに身に付けた知識や技能、生活を工夫する力を駆使して、自分の生活を豊かにしようとする実践的な態度を育てる上から大切である。

そこで、本題材では、家族の用途に応じた形や大きさに布を裁ったり見通しを持って製作を進めたりすることができるようになることや、自分の家庭生活や家族のために生かされる喜びや楽しさを味わわせたりすることを大切にしていく。そのために、家族の誰が何を必要としているか家庭生活を観察させたり、試し作りから課題を明確に持たせたりする活動を取り入れたりする。更に、各活動が自分の家庭生活にはどのように生かされるのかつなげて考えられるようにさせていきたい。

具体的には、まず、自分の家庭生活を振り返り、布製品がどのような場面で活用されているかを考えさせ、製作への意欲を高めさせていく。次に、共同製作をし、製作過程における課題を明らかにさせる。そして、使用目的に応じた課題について調べたり話し合ったりして追求し、分かったことを生かして製作させていく。

これらの学習を通して、大きさや形、厚みなどの視点に気付いたり、目的に応じた工夫の仕方が分かったりするとともに、家族の家庭生活中に役立つ物を製作することができるようになった喜びや自分が製作した物が家庭生活中で活用される喜びを実感することで、自分の家庭生活をさらに豊かなものにしようとする実践的な態度を高めることができるようにする。

## (3) 児童の実態 (質問紙法, 複数回答有り)

## ① 布製品のよさ

肌触りがいい 10, 加工しやすい 6, 丈夫 6, 使いやすい 4, 洗える 3, 思いを込められる 3, 伸縮する 2, 見た目がいい 2, 分からない 2, リサイクルできる 1

## ② 製作時に気を付けること

安全面 26, 分からない 6, 引っ張りすぎない 3, 見た目 1, 長さ 1, 布端を折る 1

## ③ 本学習をどのように家庭で生かせるか

家族や自分の実態に応じた物を自由に作れる 17, 布を再利用できる 5, 分からない 5, 将来役に立つ 3, 経済的 2, 整理整頓できる 2, 家事ができる 2, 家庭で様々な発想ができる 1, 効率的 1

## ④ これまでの家庭科学学習で難しいと感じたこと

○ある 28 (ミシン 13, 裁縫 11, 玉結び・玉止め 1, 採寸 1, ゆで時間 1, 思い通りにいかないもの 1)

○ない 10

## ⑤ 気付いている必要性

○縫い代 23

○ゆとり 20

○三つ折り 2

## ⑥ 学びたい方法

実際にやる 17, 基本的なこと 5, 楽しく 3, 計画を立てて 3, グループ 3, 実験 2, 教師の真似 2, 教科書 2, インタビュー 1

本学級の子どもたちは、①より、布という素材の特性を捉えていることが分かる。一方で、布製品が家庭においてどのように役立っているかという機能的なことには気付いていない。また、②より、製作時の安全面に対する意識は高いが、目的に応じて工夫する必要性や方法にはほとんど気付いていないことが分かる。これらのことから、身の回りに布製品は溢れているが、その殆どが既製品であり、家族の実態に合わせて布を加工した経験や、加工している家族の姿を目にした経験が少ないことが分かる。ただし、③より、本題材の学習によって、自ら家庭生活をよりよくすることができるようになると考えていることが分かる。これは、自分の家族に応じて工夫するよさについては気付いているものの、工夫する視点や方法を見出せていないためであると考えられる。④より、これまでの家庭科学学習で衣領域の内容について難しいと感じている子どもが多いことが分かる。

よって、本題材では、基礎的・基本的な力の定着を図れるような学習指導を取り入れていく必要がある。⑤より、縫い代やゆとりの必要性に気付いている子はほぼ半数であることが分かる。よって、グループ学習等友達との学び合いの場を設定することで、気付かせることができると考えられる。また、バッグの開き口等、布端の見た目をよくするための三つ折りの必要性についてはほとんどの子が気付いていない。よって、本番の製作前の活動において、三つ折りの有無による布端の比較ができるような学習を展開していきたい。⑥より、実際に行ってみる方法で学習していきたいと考えていることが分かる。実際に観察したり製作したりする活動を大切にしながら、資料活用や友達との話し合いなどによって、一人一人が納得できる追求活動を行わせていきたい。このようなことから、子どもたちの製作に対する気持ちを大切にしながら、実際に製作する活動を通して、製作するよさに気付かせるとともに、基本的な知識、技能の定着や生活を工夫する力を身に付けていけるようにしたい。

## (4) 指導上の留意点

ア 生活に役立つ物を製作する具体的なよさに気付かせるために、生活文化として受け継がれている身近な布製品の役割や家族の使用頻度などを調べて生活に役立っていることを実感させる。また、家族のために何を製作すれば生活がよりよくなるかを、家庭生活を見つめ直すことで考えさせ、自分が製作していく物を決定させる。

イ 基礎的・基本的な力を十分に身に付け、自信をもって自分の作品を製作できるようにするために、作りたい物別グループで1つの作品を製作させ、友達と学び合いができるようにする。また、その際に、作品を贈る相手や使用目的に応じて、厚みやゆとり、布端の始末など製作上の課題に気付かせるために、形、大きさ、縫い方、縫う順序といった観点から、自分の課題を明確にさせ、追求活動によって明らかになったことを基に自分の製作計画を立てさせる。

ウ 追求したことを生かしながら、家庭生活に応じた家族への贈り物を作るために、採寸の仕方や縫い方の工夫などについてグループ内及びグループ間で解決したことを確認したり試したりすることができるように、作りたい物別グループで作った作品を比較対象としていつでも用いることができるようにしておく。また、自分の課題を振り返りながら製作したり、作品を活用したりできる嬉しさを味わえるようにする。

### 3 目 標

- (1) 布を使った物が生活の中で果たす役割や作り方に関心をもち、使いやすく作るための自分の課題を追求しながら、進んで作ろうとすることができる。
- (2) 作りたい物を構想し、製作手順や時間に見通しをもって丈夫に手際よく作る工夫を見つけ、製作計画を立てることができる。
- (3) 生活に役立つ布製の物の種類と役割をつかんで、自分の作りたい物を決め、見通しをもって製作することができる。

### 4 指導計画 (全 13 時間)

過程	学ぶ喜びや楽しさ	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ																				
みつめる	布製品は、わたしたちの家庭生活の中で様々な役割を果たしている。	1 家庭生活で役立つ布製品について考え、贈りたい相手や作りたい物を決める。① ＜テーマ＞	○ 家庭生活に即した学習であることを意識させるために、家庭にある布製品の役割について話し合わせるようにする。																				
つかむ	お母さんが仕事に行くときに使うバッグを作りたい。	2 学習計画を立て、作りたい物別グループで共同製作計画を立てる。② (各グループへの提示条件例)	○ 自分の家族に応じた作品を作る前に、基礎的・基本的な知識・理解、技能を身に付けさせるために、作りたい物ごとにグループを編制し、グループごとに一つの作品を共同製作させる。その際、相手に応じた工夫をしようという意識を高めさせるために、贈る相手と用途を条件として教師が指定する。																				
見通す	図書室の先生には、どんなバッグを贈ると喜ばれるかな。好きな色や、よく持ち運ぶ本についてインタビューしてみよう。	<table border="1"> <tr> <td>班</td> <td>誰が(相手)</td> <td>何のために使用する物か(用途)</td> <td>読みやすいように本のサイズに合わせよう。</td> </tr> <tr> <td>カブック</td> <td>担任の〇〇先生</td> <td>読書タイムで読む文庫本を覆うため</td> <td></td> </tr> <tr> <td>バッグ</td> <td>図書室の××先生</td> <td>低学年の学級へ、絵本を持ち運びするため</td> <td>持ちやすいように持ち手をつけよう。</td> </tr> <tr> <td>ミトン</td> <td>家庭科の△△先生</td> <td>調理実習や授業準備の時に熱い鍋の取っ手をつかむため</td> <td>熱を通しにくい厚い布で作ろう。</td> </tr> <tr> <td>ティッシュカバー</td> <td>保健室の□□先生</td> <td>保健室に置いてあるティッシュボックスを常に覆うため</td> <td>具合の悪い子の気持ちを和らげる色柄の布を使おう。</td> </tr> </table>	班	誰が(相手)	何のために使用する物か(用途)	読みやすいように本のサイズに合わせよう。	カブック	担任の〇〇先生	読書タイムで読む文庫本を覆うため		バッグ	図書室の××先生	低学年の学級へ、絵本を持ち運びするため	持ちやすいように持ち手をつけよう。	ミトン	家庭科の△△先生	調理実習や授業準備の時に熱い鍋の取っ手をつかむため	熱を通しにくい厚い布で作ろう。	ティッシュカバー	保健室の□□先生	保健室に置いてあるティッシュボックスを常に覆うため	具合の悪い子の気持ちを和らげる色柄の布を使おう。	○ 考えの高まりを実感することができるようにするために、また、製作後の課題を明らかにするために、贈る相手が喜ぶための工夫を予想させて(考え①)計画を立てさせる。より具体的な改善策を見出せるようにするために、予想を立てさせる際には、具体的な方法と結果(見た目がよくなる、丈夫になる、使いやすくなるなどの視点)を明確に表現させるようにする。
班	誰が(相手)	何のために使用する物か(用途)	読みやすいように本のサイズに合わせよう。																				
カブック	担任の〇〇先生	読書タイムで読む文庫本を覆うため																					
バッグ	図書室の××先生	低学年の学級へ、絵本を持ち運びするため	持ちやすいように持ち手をつけよう。																				
ミトン	家庭科の△△先生	調理実習や授業準備の時に熱い鍋の取っ手をつかむため	熱を通しにくい厚い布で作ろう。																				
ティッシュカバー	保健室の□□先生	保健室に置いてあるティッシュボックスを常に覆うため	具合の悪い子の気持ちを和らげる色柄の布を使おう。																				
追求する	本のサイズを測って、全く同じ大きさのバッグにすれば、きつと使いやすいだろう。	3 作りたい物別グループで共同製作をする。③④⑤ 4 製作した作品の成果や課題について作りたい物別グループ内でまとめる。⑥	○ 考え①の予想と比較させる。																				
まとめる・生活化への意欲付け	縫い目が少し曲がってしまったから、家族への贈り物を作るときは、まっすぐ縫えるように気を付けよう。	【考え②】 製作してみて気付いた自己評価(グループ内)	○ 実際に試してみるよさや友達との学び合いのよさを実感できるようにするために、共同製作後に気付いたことを成果と課題としてまとめさせる(考え②)。その際、考え①の予想と比較させる。																				
	あれ。入れる物と同じ大きさにすると、出し入れがしにくいんだ。実際に使ってもらって初めて分かった。	5 作りたい物別グループ間で情報交換をし、家族が喜ぶ贈り物を作るために、どのようなことに気を付ければいいのか話し合う。⑦(本時)	○ 客観的に自分たちの作品を評価したり、相手に応じた作品を作るための視点に気付かせたりするために、贈った相手からのメッセージを伝えたり、グループ間で情報交換をさせたりする。																				
	家族の好みや用途に応じた贈り物を作れそうだ。	【考え③】 贈った相手からの他者評価 ⇨ 様々な考え(グループ間)	○ 自分でもできたという達成感や家庭でも作ってみたいという意欲を持たせるために、今後の家庭生活でどのように生かすことができるのか話し合わせる。																				
		6 家族に贈りたい物の製作計画を立てる。⑧ 7 家族に贈りたい物を製作する。⑨⑩⑪⑫ 8 製作した作品を発表し合い、目的に応じて工夫している点やこれから家庭生活中で生かせることについて話し合う。⑬																					

## 5 本 時 (7 / 13)

### (1) 目 標

発表し合ったことを自分の作品に生かそうとし、自分の家族に応じた工夫の仕方に気付くことができる。また、布端の始末をする方法やゆとりをもたせる方法などについて分かる。

### (2) 本時の展開にあたって

本時の展開にあたっては、根拠を基に相手に応じた製作計画を立てる必要性を感じさせたり、相手に応じた工夫の仕方について視点を明確にもたせたりするために、これまでの共同製作として製作した物を贈った相手からのメッセージや、他のグループで明らかになった解決策について知る場を設定し、客観性をもたせるようにする。その際、目的に応じた工夫に気付かせるために、相手・用途・解決策・理由を明確にし、自分の作品に生かすことができるようにさせたい。

### (3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ									
みつめる・つかむ・見通す	1 テーマを確認し、学習課題を設定する。 <テーマ> 家族がよるこぶおくり物を作ろう。 家族がよるこぶおくり物を作るには、どのような工夫をすればいいだろうか。	(分) ↑ 5	○ 本時で学習したことを、自分の製作に生かそうという意欲を高めるために、テーマに基づいて、最終的に目指す作品の視点を確認させる。 ○ 学習の見通しをもたせるために、学習課題を設定させる。 ○ 得られた課題に対する意識を明確にもち、新たに分かったことと比較することができるようにするために、共同製作としてこれまでの製作した作品を準備し、自由に扱うことができるようにしておく。									
	2 成果や課題について情報交換をする。 (1) グループ内での気付き (2) 贈った相手からの感想 <感想例>											
追求する	<table border="1"> <thead> <tr> <th>贈った物</th> <th>成果</th> <th>課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>バッグ</td> <td>入れ口の部分は、布端が見えないように折ってあるから見た目がきれいだね。</td> <td>重い本を持ち歩くときには、重みで持ち手が取れそうになるよ。</td> </tr> <tr> <td>ミトン</td> <td>布が厚いから、熱い鍋を持っても平気だったよ。</td> <td>手を入れるときに、少しきつくて、出し入れがしにくかったなあ。</td> </tr> </tbody> </table>	贈った物	成果	課題	バッグ	入れ口の部分は、布端が見えないように折ってあるから見た目がきれいだね。	重い本を持ち歩くときには、重みで持ち手が取れそうになるよ。	ミトン	布が厚いから、熱い鍋を持っても平気だったよ。	手を入れるときに、少しきつくて、出し入れがしにくかったなあ。	20	○ 根拠を基に相手に応じた製作計画を立てる必要性を感じさせたり、相手に応じた工夫の仕方について視点を明確にもたせたりするために、これまでの共同製作として製作した物を贈った相手からのメッセージを確認させ、自分の家族に置き換えて考えさせる。その際、目的に応じた工夫に気付かせるために、相手・目的・解決策・理由を明確にし、自分の作品に生かすことができるようにする。 ○ 家族のために作ってあげる喜びや、相手に応じて工夫するよさを感じさせるために、成果や課題だけでなく、贈った相手が自分のことを考えて作ってくれたことに喜びを感じていることにも触れる。 ○ 正しい縫い方など基礎的・基本的な知識の定着を図るために、説明や理解が十分でない場合は、机間指導をしながら教師が補足説明や指導を行う。例えば、三つ折りの仕方やまちの作り方を自分の製作に生かすためには、高度な知識・理解、技能を伴うので、写真や実物を用いて具体的な方法を理解させられるようにする。 ○ 目的と解決策をより明確に関連付けて理解させるために、グループ間で情報交換をする際には、視点と方法を具体的な言葉で表現させるようにする。
	贈った物	成果	課題									
バッグ	入れ口の部分は、布端が見えないように折ってあるから見た目がきれいだね。	重い本を持ち歩くときには、重みで持ち手が取れそうになるよ。										
ミトン	布が厚いから、熱い鍋を持っても平気だったよ。	手を入れるときに、少しきつくて、出し入れがしにくかったなあ。										
<p>(3) グループ間の情報交換で分かったこと (課題例)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>ブックカバー班</td> <td>・本が入らない。 ・採寸が難しい。</td> <td>【使いやすさ】 厚み、縫い代、ゆとり、まちの必要性</td> </tr> <tr> <td>バッグ班</td> <td>・物が入らない。 ・入れ口の布の糸がほつれている。 ・重みで持ち手が取れる。</td> <td>【作りやすさ】 型紙の必要性 【見た目のよさ】 三つ折り・二つ折りの必要性</td> </tr> <tr> <td>ミトン班</td> <td>・手が入らない。 ・手を入れるところの布がぼさぼさになっている。 ・手を入れると、糸がほどける。</td> <td>【丈夫さ】 返し縫いの必要性</td> </tr> <tr> <td>ティッシュボックス班</td> <td>・ティッシュボックスが入らない。 ・構造が難しい。</td> <td>どの作品でも、目的に応じた工夫ができる。</td> </tr> </tbody> </table>	ブックカバー班	・本が入らない。 ・採寸が難しい。	【使いやすさ】 厚み、縫い代、ゆとり、まちの必要性	バッグ班	・物が入らない。 ・入れ口の布の糸がほつれている。 ・重みで持ち手が取れる。	【作りやすさ】 型紙の必要性 【見た目のよさ】 三つ折り・二つ折りの必要性	ミトン班	・手が入らない。 ・手を入れるところの布がぼさぼさになっている。 ・手を入れると、糸がほどける。	【丈夫さ】 返し縫いの必要性	ティッシュボックス班	・ティッシュボックスが入らない。 ・構造が難しい。	どの作品でも、目的に応じた工夫ができる。
ブックカバー班	・本が入らない。 ・採寸が難しい。	【使いやすさ】 厚み、縫い代、ゆとり、まちの必要性										
バッグ班	・物が入らない。 ・入れ口の布の糸がほつれている。 ・重みで持ち手が取れる。	【作りやすさ】 型紙の必要性 【見た目のよさ】 三つ折り・二つ折りの必要性										
ミトン班	・手が入らない。 ・手を入れるところの布がぼさぼさになっている。 ・手を入れると、糸がほどける。	【丈夫さ】 返し縫いの必要性										
ティッシュボックス班	・ティッシュボックスが入らない。 ・構造が難しい。	どの作品でも、目的に応じた工夫ができる。										
まとめる・生活化への意欲付け	3 学習のまとめをする。 ゆとりやぬいしろの分を布の長さに加えたり、布はしを折ってぬったりするなど、目的に応じた工夫をすればいい。	10	○ 本時の学習を自分の作品に生かすことができるようにするために、分かったことをまとめさせる。その際、製作する物は異なっても共通して言えるように表現させるようにする。 ◎ 得られた情報を自分の製作にどのように生かしたらいいか分からない子には、本時の内容を実物や写真、ワークシートで振り返らせ、自分が贈りたい相手にふさわしい条件をまず選択させるようにする。									
	4 本時の学習が自分の家族に贈りたい物の製作にどのように生かせるか考える。	10										
	5 本時の学習を振り返る。											